

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】平成25年11月14日 (2013.11.14)

【公表番号】特表2013-505781(P2013-505781A)
【公表日】平成25年2月21日 (2013.2.21)
【年通号数】公開・登録公報2013-009
【出願番号】特願2012-530991(P2012-530991)
【国際特許分類】

A 6 1 N 1/05 (2006.01)

【F I】

A 6 1 N 1/05

【手続補正書】

【提出日】平成25年9月24日 (2013.9.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ガイドワイヤ式ペースング又は検出リード。

【請求項 2】

複系線ガイドワイヤ型ペースング又は検出リード。

【請求項 3】

複系線ガイドワイヤ型一時的ペースング又は検出リード。

【請求項 4】

2 本系線ガイドワイヤ型ペースング又は検出又は除細動リード。

【請求項 5】

4 本系線ガイドワイヤ型ペースング又は検出又は除細動リード。

【請求項 6】

遠位セグメントと、中間セグメントと、近位セグメントと、を有する 2 本系線ペースングリードであって、系線のうちの一方の系線は第 1 の電極手段に接続され、系線のうちの他方の系線は第 2 の電極手段に接続され、第 1 の電極手段及び第 2 の電極手段は、第 1 の電極手段と第 2 の電極手段の間に導電経路の短絡がないように十分に分離され、系線は、第 1 のコネクタ手段及び第 2 のコネクタ手段にそれぞれ結合されている、

2 本系線ペースングリード。

【請求項 7】

電極手段の 1 つは、リードの最遠位端に配置され、第 2 の電極手段は、リードの最遠位端の近くに配置される、請求項 6 に記載のペースングリード。

【請求項 8】

系線は、電気絶縁厚さのポリイミドで被覆されている、請求項 6 に記載の複系線ガイドワイヤ型ペースング又は検出リード。

【請求項 9】

リードは 4 本系線である請求項 7 に記載のリード。

【請求項 10】

ガイドワイヤ型ペースングリードであって、

遠位端及び近位端を有する、複系線の、細長い、螺旋巻リード本体を含み、

螺旋巻リード本体は、電氣的に絶縁された少なくとも第 1 の系線及び第 2 の系線を含み

、第 1 の系線は、第 1 の接触手段及び第 1 のコネクタ手段に電氣的に結合され、第 2 の系線は、第 2 の接触手段及び第 2 のコネクタ手段に結合され、第 1 の接触手段と第 2 の接触手段は、第 1 の接触手段及び第 2 の接触手段の両方が組織に適用されたとき、これらの間に電氣的短絡経路が存在しないように、十分に間隔を隔てられ、

更に、リード本体は、リード本体の遠位端に非外傷性先端を含み、第 1 の系線及び第 2 の系線は、異なる直径を有し、リード本体の長さの大部分にわたって巻き合わされ、上記系線の一方又は他方は、リードの遠位端のすぐ近くで終わっている、

ガイドワイヤ型ペーシングリード。

【請求項 1 1】

系線は、系線の電気絶縁被覆によって電氣的に絶縁されている、請求項 1 に記載のリード。

【請求項 1 2】

第 1 の電極手段は、リード本体によって画成された外側へ片寄った円形構造体である、請求項 1 に記載のリード。

【請求項 1 3】

リード本体はループを画成し、系線の一方は、上記ループによって支持されたリング形接触手段に電氣的に結合される、請求項 1 に記載のリード。

【請求項 1 4】

少なくとも第 1 の系線及び第 2 の系線のうちの一方は、接触手段を画成するために除去された絶縁材の少なくとも一部分を有する、請求項 1 に記載のリード。

【請求項 1 5】

螺旋巻系線によって画成される管腔内に配置され、且つ非外傷性先端に電氣的に結合されている絶縁芯線を更に含む、請求項 1 に記載のペーシングリード。

【請求項 1 6】

心臓手術の一部として心室頻拍を誘起させる方法であって、

請求項 1 乃至 1 5 のいずれか 1 項に記載の複系線ガイドワイヤ型ペーシングリードを準備するステップと、

頻拍を誘起させるべき心室の位置にリードを差し向けるステップと、

リードを電氣的に作動することによって心室頻拍を誘起させ且つ維持し、心臓が心室頻拍の状態に維持されている間心臓に医療処置を行うステップと、

リードの電氣的作動を中止し、心臓を正常なリズムに戻すステップと、

を含む心室頻拍を誘起させる方法。